

担任にあんまり迷惑かけんじゃないよ。」と言われると、A男がこくんとうなずいた。B男とC男はしめたとばかりに走りだした。しかし、A男は、担任の方に向き直ってお辞儀してから、それに続いた。少し心が通じ合ったような気がした。

### 学習日記で自信を

AAI検査では、学習適応性はクラスとしては高かったが、個別的にみると、不適応状態もみられた。そこで全体の学力を高めようと、クラス独自の「学習日記」を考え、6月から実施した。

1日に3ページ分、自分で立てた計画に従って自主学习し、翌日提出する。その際必ず2～3行以上の日記をつけ、担任も当日の放課後までに必ず点検しコメントする方法である。

中には自分からページ数を増やす生徒も多く、学級全体として効果が上がってくるのが分かった。生徒たちが、充実感と自信を深めてきているのが強く感じられた。

しかし、A男の提出率は低かった。担任は3人に対して、できる限り褒めたり励ましたりして、やる気を引き出そうとした。B男、C男が比較的素直に受け止め、提出するのに対して、A男の反応は鈍かった。

また、B男の学習日記から、A男が最近部活動を休んでいることも分かった。

### 家庭訪問

その晩、担任はA男の家を訪ねた。父親は奥の部屋から出てこなかったが、母親とA男と話すことができた。担任が、A男が最近部活動を休んでいることを話すと、母親は驚いたようだった。

「あまり話してくれないものですから……」

「どうして休んでいるのかな。顧問のU先生もA男のこと期待しているのに……」

担任が答えを促すと、A男はしぶしぶ、先輩との関係がまずかったことを話した。なまいきだと見られて、殴られたりこそしなかったものの、こずかれたりしたことがあったようだ。

「小学校の時から、私らがハラハラするような元気のいい子でしたから……A男、あんたが人に暴力ふるうようなことないでしょうね。お母さ

ん、それだけ心配してんだから……」

担任が帰る時、母親は一人外まで送りに来てそつと言った。

「先生もご存じのことと思いますが、主人があのようですから、A男もたびたび殴られてイライラしているようなんです。どうか、学校でのことよろしくお願いいたします。」

### 顧問のU先生との連携

家庭訪問の翌日、担任は相談室でA男と部活動のことを話し合った。A男は、バスケットボールを続けたい気持ちを強く持っていた。しばらく休んだために、かえって部活動に対する気持ちが強まったようだった。担任もできるかぎり応援すると言うと、うれしそうに笑った。後から思うと、担任の前で初めて見せた素直な表情だった。

担任は、バスケットボール部のU先生を訪ね、A男の反抗的と見える態度は、父親や先輩との関係から来ており、部活動の充実がA男を良い方向に向わせることなどを話し、協力をお願いした。

U先生も快く協力を約束してくれた。

### 夏休み中の指導

A男は、バスケットボールの練習を休まず続け、1年生の中では有望視される選手に育ちつつあった。

B男、C男の家にも家庭訪問をした。担任が、学習日記への取り組みのすばらしさを話すと、親は「あんまり、褒められたことなどないものですから……ただ最近、少しずつやる気になってきたみたいで……」と喜んでいた。

8月10日の一斉登校日、みんなが帰った後に午後から部活動の練習があるからと、A男たちが教室に残って弁当を食べていた。

一緒に座りながら、毎日部活動にきて練習に励んでいることを褒めた。

担任は、「2学期から3人で学芸係をやっては」と、勧めた。学習日記に消極的なA男を、B男とC男にリードさせようと考えたのである。

### 2学期に向けて

明日からいよいよ2学期が始まろうとしていた。体育館の中がにぎやかだったので、担任が、中